

都島だより

発行責任者

都島クラブ代表(M42)
前田 範行

一般社団法人浪速工業会

都島クラブ会報

2023 年(令和 5 年)9 月 第 65 号

事務局 馬江 治喜

〒234-0056

横浜市中区南野庭丁 696-6

TEL045-841-8885

E-mail har1942umae@ris.ocn.ne.jp

NEWS 65 号

題字デザイン A28(故)岡田宏三氏

一般社団法人浪速工業会・都島クラブ・現在会員数 ◆ 合計 379 名

◆M・機械 72 名、ME・機械電気 22 ◆A・建築 69 名 ◆E・電気・電子工学 128 名 ◆C・土木・都市工学 29 名 ◆CI・工業化学・理数 42 名 ◆L・普通 10 名 ◆工専 7 名

浪速工業会・都島クラブ
新代表と挨拶

M42 前田 範行

後述のとおり、先の総会において本年度の浪速工業会・都島クラブ代表に任命されました機械科 42 年卒業の前田範行です。当クラブの運営に少しでもお役に立てるよう努めたいと思っています。

2019 年以降、コロナ禍により長く途絶えていた都島クラブの総会が本年 5 月 20 日東京六甲クラブで開催されました。コロナ感染が落ち着いてきたとはいえ懸念が残るなか開催に際しご協力を頂きました会員の皆様方に御礼申し上げます。会場設定ほか先が見通せない状況にも関わらず総会が実施できたことはご同慶の至りです。関係方々のご尽力に感謝致します。5 月連休以降、過去 3 年余りの自粛生活から解放され少しずつ明るい兆しが見えてきましたが、この間の内向きの生活により心身が鈍ってしまったように感じます。今後は極力外向きの生活を心掛けたいと思っていますところと承知のとおり、浪速

工業会・関東支部から浪速工業会・都島クラブに改称後、今日までこの会が多くの方々の幹事の方々のご努力により営々と絶えることなく続けられてきたことを改めて知り、驚きとともにありがたく感謝をしておりますが、既報 63 号に記載のとおり停滞期 3 年余の間に多くの幹事が 80 歳を超えられ、会の継続が困難な状況になっていきます。関東圏への転勤者の減少に伴い若返りが図れず急速な IT 化により当会の関わりや個人の想いが以前にも増して多様化してきているようです。嘗て同年代外の人達が集まり行動を共にした過去の連帯意識は年々薄れてきているように思います。また、長年かけて諸々実施されてきた各行事も種々な形でやり尽くされ、マンネリ感が払拭されない中、幹事の人材不足も重なりある時期から回転しなくなつたと認識しています。かような状況で今後も各行事を続けることは難しいかもしれません。が年に一度の総会やこれらと思ふ興味深い企画があれば実施に向けて進めていければと思っておりますので皆様のご要望、情報提供等をお待ちしています。今後も継続できる当世にふさわしい会の在り方や幹事に負担が偏らない形はないか模索して行ければとも考

えています。が、何れにしても幹事の皆様との相談事項と捉えています。もう少し前向きな挨拶文を披露するつもりでしたがかような内容になりました。最後にすでに退職されておられる方や現役の方々にお願いです。仕事、家庭、その他で忙しいかと思いますが、米大リーグで活躍中の大谷選手のような二刀流を期待しています。

令和 4 年度

浪速工業会・都島クラブ総会報告

都島クラブ事務局

E36 馬江 治喜

2023 年 5 月 20 日 (土)

都島クラブ総会 集合写真
神戸大学東京六甲クラブにて

2020 年 5 月に都島クラブの総会を新宿の住友倶楽部にて開催決定していたが、新型コロナの影響で急遽中止となり、それから 3 年過ぎてやっと開催に

こぎつけることが出来た。この総会を再開するには8か月以上前より、営家代表を先頭に幹事会を開催して、場所、日時等を協議して今回の総会の開催となった。今回は場所を以前より変更して、有楽町の神戸大学東京六甲クラブにて、全フロアーを借り切って2023年5月20日(土)に開催した。参加者は本部より塩田昌弘副理事長殿、制度が府立になって初めて母校より大西忠典校長先生はじめ総勢22名の参加を得ました。式次第に従い営家代表の挨拶、事務局より3年間の行事予定、会計報告の発表があり、西村監査役の承認発表があった。新年度の代表はM42卒前田範行氏、副代表はA47卒西口勝臣氏、会計監査役はA57卒中谷卓司氏が全員の賛同で決定した。その後、塩田副理事長殿のご挨拶を頂き、大西校長先生が府立に変更して1年余が過ぎるの状況を詳しくお話しを頂き、また出席者よりの問い合わせに詳しく返答を頂きました。

その後M41卒の米田博美氏のスペイン語とスペイン文化・歴史の魅力の講演があり、多少予定時間が過ぎたが講演会は終了。その後着席方式での懇親会を開催、懐石料理を頂きながらお互いに親睦を語りました。懇親会では今回初参加



懇親会の模様



講演 M41 米田氏



講演会の模様

のCH6卒大脇温子さんの近況報告のスピーチなどがあり、和やかな雰囲気の中無事に閉会しました。ただ例年開催していた、ご来賓を交えての二次会は残念ながら、割愛させて頂きました。次回は新型コロナの制限もなく、以前と同じ総会が開催できる事を希望しています。



A44 水守さん、CH6 大脇さん



懇親会の模様



A28 酒井氏・乾杯



大西学校長



MMS08

水泳と私
《マスタース水泳の世界新記録への道》

Miyakojima Club
Meeting
Salon

第8回MMS開催のお知らせ

事務局より

新型コロナウイルスの影響を受けて、第7回を2019年10月に開催してから4年の歳月が経ちましたが、第8回となるMMSを左記の通り開催いたします。MMS終了後は希望者で近くのお店で忘年会を予定しています。多数のご参加をお待ちしております。

講師 E36 馬江 治喜氏
講演題目 水泳と私
《マスタース水泳の世界新記録への道》
開催日時 12月5日(火)
18時から20時

開催場所 神戸大学東京六甲クラブ

・帝劇ビルB2

参加費 2000円(軽食付き)

申込締切 11月20日(月)

申込方法 事務局・馬江まで 科、卒年、氏名をEメールにてお申込み下さい。

Eメール har1942umae@iris.ocn.ne.jp

2023.12.5 開催予定

第8回 MMS 講師



馬江 治喜氏(E36卒)略歴

在校中に電気主任技術者3種を取得。(我が同級生総勢90名の内3種合格者は34名)卒業後は湯浅電池(株)へ入社、摂陽商事(株)『営業職』、三幸(株)『ビル管理』、定年後は新生ビルテクノ(株)『ビル管理』で2017年迄勤務。その後無職。なお都島クラブ(関東浪速工業会)の事務局笹本克己氏(E13年卒)の手伝いを2000年より開始して通年 23年間事務局を担当している。

桂 米左



桂 米左氏 東京公演のお知らせ

事務局より

桂米左氏 東京公演を左記の要項で開催します。お江戸日本橋亭は椅子席で、腰が楽だと思えますので多数のお申し込みをお待ちしています。

開催日時 11月26日(日)

13時30分開演

開催場所 お江戸日本橋亭(椅子席)

(東京都中央区日本橋本町三十一六)

日本橋永谷ビル一階

料金 前売り2500円予定

お申し込み・問合せ 事務局・馬江まで

申込期限 11月15日(日)17時迄

Eメール har1942umae@iris.ocn.ne.jp

麗しの島・台湾 第5回



A27 田中 瑛也

富里 池上から30分北上すると富里

という中学校の正門前で下車、1985年に隕石【写真1】がこの学校の校庭に落ちた。その落ちた隕石を見る為の下車。校庭の一隅に造られた植え込みの中に落ちた隕石は置かれていた。直径1.5mのほぼ円形でみるからに黒曜石の感じ、硬度がある様に思える。

瑞穂 更に北上する。この地瑞穂は中央山脈を越えて西に広がる嘉南平原の中心地嘉義とを結ぶ線北緯23.27度、北回歸線が台湾島を横断する。熱帯と温帯とを分ける線。モダンなコンクリートの打ちっ放しの塔が、その地点を示す標識の任を担う。嘉義の地名で思い出すのは、嘉義農林という校名、戦前甲子園で開催された夏の全国中学校野球大会にこの学校が出場、呉昌征という選手が大活躍をして球場を湧かせた。後年彼がプロ野球阪神タイガース球団に入団、一番打者として名を為したことも私の記憶に残る。



【写真1】富里・隕石



【写真2】光復・娯楽施設

光復 更に一時間北へ中国の光復節に因んだ地名で、日本統治が終わり、中国人による中華民国が樹立されるの思いを寄せた台湾の人々は、国民政府統治との軋轢に苦しんだ歴史は、光り復することならぬの光復、幸福を人々にもたらさなかった。その諧謔を持った地名光復に戦前、日本人が築いた台湾精糖の工場、社宅が何ら手を加えられず華やかな時代を謳歌したであろう形骸を晒している。敷地の一部は、人口密度が薄く過疎地である東部であるが故にささやかながらのショッピングセンターと娯楽施設【写真2】が設けられている。このセンターで売られるアイスクリームが美味しいので人々が集まるとのこと。死しても皮を残す。さすが台糖が栄えた土地の光復、再興であろう。

花蓮

晴天が数日続いたが、雲行きが怪しくなり、雨がぽつりと降り出しその痕跡を窓ガラスに残す。雲が低くたなびき夕刻の到来を早く知らせる。ネオンの光りが薄墨色の野に放つアミ族が演ずる民族舞踊劇場に駆け込む。中央に円形の舞台を囲んで挿り鉢状に観客席が設けられ、700人を収容する屋内体育館に類似した建築空間だ。日本人がアイヌ民族や沖縄舞踊を観光資源として利用するように、台湾人も先住民族の舞踊を観光に今日する。かつて日本人が高砂族として総称した先住民族の種族の人口は、現在41万人と云われ、我々が鑑賞する舞踊を演ずるのはアミ族だが、他にタオ、タイヤル、サイシャット、ツォウ、ブナン、パイワン、ピナン、ルカイ、サオ、ガラマン、タロコ、の十二部族からなる。しかし近年部族間の同化、漢民族との婚姻等で先住民族が持ついた固有の伝統文化は衰退の道を辿りつつある。半時間程待っていると、華やかな色彩の衣裳を身に纏ったアミ族の若き女性達【写真3】が円形の舞台上を、処狭しと続々と踊りまくる。十二部族の中でもこのアミ族は



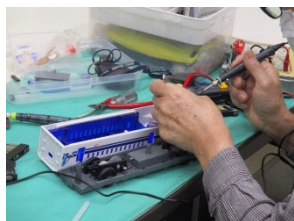
【写真3】アミ族・民族舞踊

とりわけ歌や踊りに秀でていると云われ、彼等の農耕狩猟を主体とした日常生活でのイベント、豊年祭、山狩りの儀式、結婚の儀式などを踊りという芸を通じて観客に見せる。興味を惹いたのは、稲を植える田植えの踊り、この踊りで日本に稲作がもたらされたのは南方の島々から台湾を経由して入り、日本で高度な品種改良が為されて、池上米を範とする如く台湾に逆輸入され、台湾人の食生活を豊かにする一翼を担うと、考えるとここに一つ文化の流通の経路が見える。一時間にわたって演じられた踊りのしめは、結婚式の場、観客の一人を舞台に乗せ花婿の衣裳を着せて、共に式を演じ踊る。観客の即席の

踊り故に起こる滑稽なしぐさに場内笑いの坩堝と化した。花蓮は、台湾でも最も開発の遅れた未開の地であったが、1851年に清朝が開墾に着手しこの地へ人々の移住を奨励した。台湾を統治した総督府は、1895年以降日本からの開拓者の参加を募った。第二次大戦下小学生期を過ごした私は、地理の教科書で台湾について学び、その際台湾の名産として、樟脳、砂糖、大理石等があげられると教えられた記憶が蘇る。その大理石の産地は、花蓮の北部太魯閣の山塊である。 ※次号へ続く

ボランティア「おもちゃの病院」

C140 菅家 亘道



ハンダ付け 修理風景



プラレール

「おもちゃの病院」という活動は、基本的には壊れたおもちゃを無料で治してあげるとの方針で行っているボランティア活動で、全国にドクターがいて個人

又はグループで活動を継続中の総称です。「日本おもちゃ病院協会」という組織が四谷にありますが加盟は自由で、全国で数千名のドクターが活動している規模だと思っています。ドクターになって活動を始めると、可変式外部電源、各種手作りテスター、治具等自己負担が多く、交換した部品代のみ原価で頂くとというシステムの為、年金生活者には好きでないとできません。病院開催は無料で借りられる児童ホーム、幼稚園、公民館などが主になります。では報酬は何だと聞かれると「治った時の子供の喜ぶ顔だ！」などとカッコ付けております。母親に手を引かれた幼児や孫に頼まれた祖父母が来ることが多い感じです。私が活動している「ふなばしおもちゃの病院」ではここ数年は年に1500個の依頼を受けて15名のドクターで処理しています。毎月の開催は7〜9カ所。同日に2カ所が重なる事もあります。実際に持ち込まれるおもちゃはコンスタントに「プラレール」が多いです。プラスチックのレールをつなぎ、その上を走る車両を総て「プラレール」と称し、40年以上前の初期品が持ち込まれた時はワクワクしました。滑り止めのゴムタイヤを履いた車輪が今の最新式と共通なのです。そ

の間の変遷は多岐に渡り実に奥深いものがあるためインターンドクターの練習素材としてうってつけです。他には歩く犬のぬいぐるみの足の骨折、クレールンゲーム等少し面倒な物を一手に引き受けるドクターや時計、オルゴール系も専門化して来て楽な反面他のドクターが治せなくなる恐れもあり問題点です。しゃべったりメロディや光の点滅などIC基板に関連する物も多くなり、工業化の学卒には苦手な分野です。時期的にはお風呂でシャワーやシャボン玉等 夏のおもちゃが水をかぶって錆びてから持ち込まれると厄介です。このように、自分が子供だった頃と隔世の感があるニッポンのおもちゃは90%が中国製です。まさか修理するなどと想定してないから、リード線の材質が悪く細く短い。裏蓋を開けたら引っ張って切れた。十も一も黒色だった等余計な手間がかかるが、治した時の達成感がそれに勝る。結局、自分の楽しみのためにやっているのを再認識するのであります。なお、電気科の先輩も「流山おもちゃ病院」で活動されています。



陶芸会の報告

A57 信原 利行

3年ぶりの陶芸会を2023年9月9日に国立市、くにたち自游工房にて開催しました。当初参加申込はA57中谷氏と私の2名での予定でしたが、中谷氏が仕事の都合で急遽参加出来なくなり、開催の中止も検討しましたが、A46柚木氏とも相談し、私1名で工房へ伺うことにしました。工房では柚木氏の奥様のご指導のもと色粘土を使用する新しい陶芸を体験することになりました。カラフルなお皿が焼きあがる予定です。



くにたち自游工房にて



色粘土による作品

計報

M18/12	小川 勝宏氏	2022年5月7日
C20	吉田 正次郎氏	2023年3月11日
M26	上田 英雄氏	2022年9月3日
A27	田口 裕市氏	2022年
L28	原田 寿明氏	2022年6月1日
M29	早川 好雄氏	2021年2月8日
E30	西川 賀博氏	2022年2月1日
CI35	布浦 進次氏	2022年4月1日
E37	市村 憲治氏	2023年1月23日

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

次号のMニュースは
令和6年2月の発行予定です

皆様からの原稿をお待ちしています。
事務局までお送りください。